



# 看取りの文化を構想する

□オンライン開催

死生学研究所ホームページから  
お申込みください

□お申込み締め切り

2023年4月12日(水) 17時

□先着 100名様

□お問合せ 死生学研究所 shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

□参加費 無料

## 第1回連続講座

## 浮ヶ谷幸代

(うきがやさちよ) 相模女子大学名誉教授

4月15日(土)

16:20-17:50

### あなたはどこでだれとどのように 最期を迎えたいですか？

#### ■プロフィール

専門は、文化人類学と医療人類学です。テーマは、糖尿病患者の病気観、精神障がいの当事者研究、ケア論、身体観、専門性研究、地域医療など、多岐にわたっています。近年は、死と看取りについて、医療・福祉・介護に関わる領域を人類学の視点から考えています。

#### ■主要業績

単著書：『ケアと共同性の人類学：北海道浦河赤十字病院精神科から地域へ』生活書院、2009年

編著書：『苦悩することの希望：専門家のサファリングの人類学』協同医書出版社、2014年

『苦悩とケアの人類学：サファリングは創造性の源泉になりうるか？』世界思想社、2015年

『医者と人類学者との対話：ともに地域医療について考える』協同医書出版社、2021年

『現代日本の「看取り文化」を構想する』東京大学出版会、2022年

#### 内容紹介：

私が看取りをテーマにするきっかけは義母の在宅看取りの経験です。昨年、実母の死も経験しました。入院先から長男宅へという義母、自宅療養から入院へという実母、異なるルートで最期を迎えた二人、どちらも幸せな最期だったと思いますが、そのプロセスでは終末期医療の問題、在宅医療・介護の問題、コロナ禍による入院での面会制限、葬儀の在り方、墓の継承など、現代日本で家族として人生の最終ステージで迎えるさまざまな問題に直面してきました。そこで、体験談とともに、フィールド調査から看取りと葬儀の事例を通して、家族として地域として、「わがこと」としての最期の迎え方について、みなさんとともに考えてみたいと思います。

### 〈予告〉

◇港区麻布地区総合支所・本学人間科学研究科共催

第2回〈公開〉連続講座

5月27日(土) 16:30~18:00

林 美枝子

(日本医療大学総合福祉学部介護福祉マネジメント学科教授)

「『看取りのドゥーラ』をめぐる介護人類学的考現学、  
最期の寄り添い人が臨死期をどう変えていくのか」

東洋英和女学院大学死生学研究所編

死生学年報2023

「死生学の拡がり」

◆書店にて定価2,500円+税でご注文、ご購入いただけます

◆お問い合わせ 東洋英和女学院大学 死生学研究所

shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

お申込みはこちら→

